

〈教科書「地方議員」リレートーク〉

■ 知ること・分かること

白河市議会議員

(市議としては無所属、個人は自民党员)

高橋 光雄



去る5月22日、自由社の『新しい歴史教科書』を採択した常陸大宮市への視察訪問ツアーに合流し、市長・教育長の話を伺いました。教育長は市単独採択で数少ない中学校教諭のうち、調査研究に当たった先生方が本気で各社の教科書を読み比べた結果だと話されました。

「ふるさとの 山に向かいて 言うことなし ふるさとの山は ありがたきな」と啄木は歌っています。私の住む白河市は、「西に那須の山々が連なり、北には阿武隈の流れが美しく、小峰のお城や南湖の松が昔のことを語りかけます。ふるさとは自然だけを指すわけではありません。この自然の中で級友たちと一緒に遊んだことや、この地で生活した昔の人の生き方が、この土地と結びついて私たちに語りかけているものがこの『ふるさと』ということばにこめられているのです」(深谷健)

占領軍の検閲によって、大東亜戦争を太平洋戦争と、支那事変を日中戦争と呼ぶよう強制されたが、占領がとうに終わっても政治・マスコミ・教育など公の場では現在も当然のこととして使われています。しかし、言葉を失うことは、心や意識、感性を失うことです。言葉を失えば事態も歴史も正確に見ることはできません。

■ 正しい教科書採択に向けて

松江市議会議員 (幸福実現党)

村松 りえ



「教科書採択について」。このテーマで質問した議員は松江市議会が始まって以来のことだったそうで、なぜこのような質問をするのかまずもって教育委員会に聞かれました。歴史教科書の違いについて話すと、「教科書検定に合格している教科書ですからそんなに違いはありません」と言われ、認識があまりにも違うことを目の当たりにしました。

一般質問をするに当たり、前回の協議会の議事録を調べると、どの教科でも当たり前に、1番と2番が決めてあり、1番でいいですかと誘導され、異議なしで通過していくというのがほとんどでした。これが「絞り込み」だという認識は毛頭なく、噛み合わない議論が続きました。

教科書展示会についても、教科書センターという教師しか来ないところでの開催のみ、しかもアンケートすら取られていませんでした。この点を指摘すると「教科書展示会は先生に見てもらったためのもの」「アンケートは必要ない」との回答で、あまりの認識の違いに愕然としました。

先日の常陸大宮市の視察で、全国には志を一つにする仲間がたくさんいることに勇気をいただきました。厳しい道の上にはありますが、「つくる会」のお知恵をいただきましたながら正しい歴史教科書採択に向けて一歩一歩、歩みを進めていきたいと思えます。